

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

文化芸術による歴史と文化のまち活性化プラン

2 地域再生計画の作成主体の名称

足利市

3 地域再生計画の区域

足利市の全域

4 地域再生計画の目標

足利市は、昭和45年、市民の総意、こころを表すものとして、足利市民憲章を定め、その第1に「足利市は日本最古の学校のあるまちです。」(教養を深め、文化のかおり高いまちをつくり、すぐれた伝統をさらに発展させましょう。)と定めた。

そうしたことから、足利市は、「歴史と文化のまち」として、これまで培われてきた文化芸術を継承し、推進してきた。

平成14年度・15年度には、文化体験プログラム支援事業を実施し、子供たちが様々な文化を体験するとともに、平成15年度からは伝統文化子ども教室を実施し、本市の代表的な郷土芸能である八木節をはじめとする伝統文化の継承に努めている。

また、足利市民プラザを拠点として、アマチュア演劇団体が積極的に活動しており、毎年市民プラザ演劇祭を開催し、これまで54公演、延べ24,600人余に鑑賞していただいた。平成16年度においては、足利市民プラザ演劇祭10周年記念公演として、市内アマチュア7団体が共同して制作したオリジナル作品「美人絡繰月草紙(びじんからくりつきぞうし)」を上演、好評を博した。

一方、今日の厳しい経済状況や少子高齢化等から、本市の人口も減少に転じており、文化芸術活動を行う人の高齢化や文化団体会員の減少、更には、指導者・担い手の不足など今後の文化振興を図っていく上での課題も多くなっている。

こうしたことから、「文化芸術による創造のまち支援事業」の活用や関連事業を実施し、地域文化リーダーの育成、文化ボランティアの育成、文化施設の環境整備などを進め、地域に根ざした「文化芸術による歴史と文化のま

ち」の活性化を図るものである。

この事業の展開により、芸術文化ボランティアの登録者数を500人（新規事業）に、アマチュア劇団による演劇公演を、年間6公演を10公演に、入場者数を延べ3,600人から6,000人にすることを目標とする。

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

足利市文化芸術による創造のまち支援事業は、市民が主体となり運営され、演劇大学を始めとする各種講座やシンポジウム等を実施し、文化芸術の活性化とまちづくりを推進していく事業であるが、市民プラザ演劇祭・芸術文化ボランティア事業・文化施設的环境整備・文化活動への財政的支援などの関連事業を行うことにより、行政・文化団体（市民）・関係機関等の有機的な連携を図ることで、文化芸術を支える人材の育成や文化水準の向上が推進され、地域の再生・活性化を図るものである。

5 - 2 法第4章の特例の措置を適用して行う事業

該当無し

5 - 3 その他の事業

5 - 3 - 1 支援措置

- ・ 支援措置名

C0801 文化芸術による創造のまち支援事業

- ・ 事業の実施主体

足利市文化芸術による創造のまち支援事業実行委員会

- ・ 事業の具体的内容

実行委員会（市教育委員会、県、みどりと文化・スポーツ財団、文化団体、小・中・高校校長会）の下に、企画運営委員会（行政、文化団体、演劇団体、市民から構成）を組織し、足利市民プラザを会場に、下記の事業を実施する。

演劇大学

- 1) 演劇ワークショップ（12回）
- 2) 戯曲研究、劇作のためのワークショップ（2回）
- 3) 舞台美術・照明・音響技術講習（2回）
- 4) 衣装・メイク技術講習（1回）
- 5) アートマネジメント講座（1回）
- 6) モデル上演（1回）

舞台芸術リーダー講習会

- 1) 発声の基礎、朗読と群読、語り、読み聞かせ(1回)
- 2) 学校演劇・文化祭・総合学習指導者ワークショップ(1回)

伝統芸能地域リーダー養成講座

- 1) あしかがこども歌舞伎(6回)
- 2) あしかがこども八木節(3回)

地域舞台芸術コーディネーター養成講座(2回)

(音楽・ダンス・演劇等)

発信交流事業

- 1) シンポジウムの開催(1回)
(文化芸術によるまちづくりシンポジウム)

・実施スケジュール

演劇大学	平成17年6月～平成18年3月
舞台芸術リーダー講座	平成17年8月
伝統芸能地域リーダー養成講座	平成17年7月～11月
地域舞台芸術コーディネーター養成講座	平成17年8月
発信交流事業	平成18年3月

5 - 3 - 2 関連事業

ア 市民プラザ演劇祭

・実施主体

財団法人足利市みどりと文化・スポーツ財団

・事業の具体的内容

足利市民プラザを拠点に、市内のアマチュア演劇団体(7団体)が活発に活動していることから、技術の向上と市民文化の推進を図ること目的に、平成7年度に第1回市民プラザ演劇祭を開催し、毎年6～7団体が公演している。平成17年2月には、10周年記念公演を開催した。

入場者は年々増加しているものの、まだ少ない状況(800席に対して平均入場者数385人)にあり、市民の関心を高めるとともに、アマチュア演劇団体の一層の質の向上を図り、多くの市民の方に鑑賞いただき、市民文化の活性化を図る。

・実施スケジュール

平成17年度～19年度(年度内10公演)

イ 芸術文化ボランティア事業

- ・ 事業の実施主体
足利市教育委員会
- ・ 事業の具体的内容

足利市の芸術文化を発展させるとともに、成熟した芸術文化を享受できる文化都市を実現するためには、行政、市民、芸術家、企業等のパートナーシップが不可欠である。

また、足利市は高齢化が進み、芸術文化活動に携わる人が減少しており、そのため芸術文化活動を支える人（特に若い世代）の育成が必要となっている。

そこで、市民、芸術家、企業等から、芸術文化活動をサポートしていただけるボランティア（高校生以上の芸術文化に興味のある方で、コンサートや演劇等における企画運営・会場案内等や絵画展等における作品説明・展示作業等 様々な形で参画する。ただし、チケット販売や広告協賛集めなどの資金調達、駐車場整理は除く）を募集・登録し、一方で、サポートを必要とする市民、芸術家の情報を収集し、両者を結びつける芸術文化ボランティア事業を、平成17年度から実施し、市民主体の文化活動の活性化を図る。

- ・ 実施スケジュール
- | | |
|---------------|------------------|
| ボランティアの募集登録 | 平成17年4月～（以降随時受付） |
| ボランティア参画事業の募集 | 平成17年6月～（以降随時受付） |
| ボランティア事業の開始 | 平成17年9月～（以降随時実施） |
| ボランティア研修 | 平成17年8月～（以降適宜実施） |

ウ 文化施設等の環境整備

- ・ 事業の実施主体
足利市、足利市教育委員会
- ・ 事業の具体的な内容

足利市の文化施設は、足利市民会館（大ホール、小ホール、展示室等）、足利市民プラザ（文化ホール、小ホール）等があり、市民の発表の場として広く利用されている。しかし、老朽化が進んでおり改修の時期にきている。また、音楽、演劇などの舞台関係の練習する場所が不足している状況であるため、学校跡地、空き店舗等の利活用を含め、それらの環境整備を実施していく。

- ・ 実施スケジュール
平成17年度～19年度において適宜実施

エ 文化団体への財政的支援

- ・ 事業の実施主体

財団法人足利市民文化財団

- ・ 事業の具体的内容

市民の自主的な文化活動を助長し、芸術文化の振興を図るため、財団法人足利市民文化財団と連携し、文化団体等へ発表活動費の一部を助成している。

助成対象事業は、

文化事業の成果発表事業（展覧会、発表会など）

刊行物の発行事業

文化活動研修事業（講演会、講座など）

文化活動備品整備事業（郷土芸能用具等事業に必要な備品の整備）

自然・文化財保護活動事業（自然環境の保全、文化財の修理・保存、標識等の整備）

その他 から に準ずる事業

となっている。

- ・ 実施スケジュール

平成17年度～19年度において随時

6 計画期間

平成17年度～平成19年度

7 目標の達成に係る評価に関する事項

地域再生計画の目標の達成に係る評価については、芸術文化ボランティアの登録者数及び演劇公演数、入場者数により判断するとともに、ボランティア登録者及び文化団体等の関係者へのアンケート調査を実施する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当無し